



私の なんとか しなきゃ!

Vol. 26

PROFILE

愛知県出身。中部地域を中心にタレントとして活動。バリ留学を経て、99年に洋服のセレクトショップを名古屋にオープン。環境に配慮した「エシカル・ファッション」の普及などを通じてフェアトレードの推進活動に取り組み、2011年には名古屋テレビ塔1階にフェアトレード&エシカル・ファッションのお店をオープン。JICA中部なごや地球ひろばオフィシャルサポーター、「なんとかしなきゃ!プロジェクト」著名人メンバー。

20歳の時にモデルとしてデビューし、その後はタレントとして活動しながら名古屋市内で洋服のセレクトショップを運営していました。

開発途上国を意識し始めたのは、ある日、目にした新聞記事がきっかけでした。私たちが食べているチョコレートは、アフリカの小さな子どもたちが親元を離れ、懸命に働いてできたカカオ豆を原料にしているのだと。そのために命を失う子さえいるという事実を知らなかった私は、同じ子を持つ母親として、こんな不平等は許せないと心が震えました。

すぐに「私にもできることを!」と、自分のお店でフェアトレード・チョコレートの販売を始めました。そしてそこからたどり着いたのが、私の専門である「洋服」を通じてできるフェアトレード「エシカル・ファッション」です。オーガニックやリサイクル素材などを使用し、公正な労働条件の下で、地域の伝統技術を継承してクリエイティブされる「エシカル・ファッション」は、私にでき

ファッションで人々を笑顔に

JICA中部なごや地球ひろばオフィシャルサポーター
タレント/エシカル・ベネロープ株式会社代表

原田 さとみ

HARADA Satomi



る国際協力のカたちでした。

それがさらに広がるきっかけとなったのが、JICA中部なごや地球ひろばオフィシャルサポーターへの就任でした。JICA中部の方がお店での私の活動を知り、地方タレントのサポーター起用を提案し、実現させてくれたのです。このような制度はJICAの国内機関としては中部が初めての試み。名古屋のタレントだからこそできる“地域を巻き込んだ国際協力”に挑戦しています。

サポーターとしての活動の一つが、中部地域の人に途上国の“生の現実”を伝えるための視察です。昨年訪れたラオスでは、まさにフェアトレードの原点ともいえるJICAの一村一品プロジェクトの現場に行きました。村で採れる素材で、その特性を生かした逸品を生み出す。カラフルな布製品、竹細工のかごなどの宝物がたくさんありました。これからのフェアトレードに必要なのはデザイン力。商品の魅力が伝わり、「欲しい」と感じて買ってもらえな

ければ、途上国の生産者の利益につなげることはできません。質の向上とデザイン力への支援は、利益を持続可能にする“思いやり”です。

国際協力は、遠い国の話ではなく、日本と途上国の地域が手をつなぎ、細やかな温もりを届ける活動だと思います。それは同時に、日本の地域を考え直す機会でもあります。フェアトレードというモノとおカネの公正な流通を通じて、自然や伝統文化を守る想いを日本でも大事にできたらと思うのです。

自分が“好きなこと”のプロになって、世の中のためになる“ビジネス”につなげる。それが今の私にできる国際協力と地域貢献です。

「なんとかしなきゃ!プロジェクト」は、開発途上国の現状について知り、一人一人ができる国際協力を推進していく市民参加型プロジェクトです。ウェブサイトやFacebookの専用ページを通じて、さまざまな国際協力の情報を発信していきます。

「なんとかしなきゃ」で 検索